

評価がモチベーションにつながった/ 好事例を紹介! お客様からの嬉しい声



工 事 部
リ ー ダ ー
は ら だ け い し
原田 恵嗣さん

現場の安全を第一に、仲間と知恵を出し合う。工事部の原田さんが率いるチームは、そのような日々の積み重ねと工夫によって、お客様から高い評価をいただきました。今回はチーム一丸となって成果を生み出した好事例と、仕事にける想いを紹介します!

お客様からいただいたお褒めの言葉

**猛暑を乗り切るアイデアと、
掃除の習慣が高評価に!**

私がリーダーを務めた現場において、安全対策と美化について、元請け様からお褒めの言葉をいただきました。決められた手順を守るだけでなく、チームで考えた独自のアイデアを実践したことが評価につながったのです。たとえば、特に暑かった2025年の夏は、炎天下で働く鉄筋チームのために簡易的な屋根を設置。初の試みでしたが、作業効率が格段に向上し、元請け

様から「とても良い」との評価をいただくことができました。また、2年前から続けている休憩所の清掃も評価されています。始めたきっかけは、現場パトロールに来られた社長が、休憩所を掃除してくださる姿を見たこと。そのときから、私たちにも現場をきれいに保つ意識が根付き、今では週1回の清掃が習慣になっています。

評価の言葉をいただいたときの心境

チームの喜びと 「当たり前」への決意

自分たちのアイデアを褒めていただいたときは、新しいものを生み出した「達成感」と、「もっと良くしたい」という向上心が湧きました。また清掃については、元請け様や社長との食事会で、「ここまでは業者は見たことがない」と嬉しいお言葉が。社長の前で評価されたことは、チームにとって大きな喜びでした。また、社長からは「褒められるから行うのではなく、当たり前の行動にしていきましょう」とのお言葉をいただき、チーム一同、気持ちを新たにしました。

**評価をいただいた、
安全への徹底した
こだわり**

元請け様が特に評価してくださったのは、私たちの取り組みが一度きりでなく、「継続」している点でした。私にとって、現場の美化は安全対策そのもの。現場が散らかっていると、つまりいて怪我をする危険性も高まります。熱中症対策も清掃も、すべては「安全第一」という考えが根底にあるのです。

仕事をする上で最も大切にしていること

失敗から学んだ、リーダーとしての在り方

仕事で心がけているのは、メンバーとの「コミュニケーション」です。独断で進めず、メンバー一人ひとりの意見に耳を傾け、否定せずに受け入れる。そうすることで、みんなが気持ち良く働ける現場をつくりたいのです。リーダーになった当初は、自分の考えを押し付

けてしまい、ときにはメンバーとぶつかったことも。その失敗から、周りの意見を尊重する大切さを学び、今のスタイルにたどり着きました。今では現場に笑顔が増え、みんなも積極的に意見を出してくれます。今回のアイデアが生まれたのも、この良好な関係性があったからこそです。

河野組の良いところ

すぐに相談できる、経営陣との距離の近さ

社長や専務との距離が近いことです。何かあればすぐに相談できる環境が、一番の魅力。私たちの仕事は未知の問題に直面することもあります。電話一本で経験豊富な社長や専務に相談できる環境は、本当に心強い限りです。また、社員思いの温かい社風も河野組の良い

ところ。たとえば、私たちは出張も多いのですが、毎回の食事や快適な宿泊場所の確保までしっかりサポートしてくれます。おかげで仕事後のプライベートな時間が充実し、心身ともにリフレッシュできるのです。社員を大切にするその姿勢は、私にとって大きな魅力です。

この工法の ココがすごい!

全周回転式
オールケーシング工法の
多彩な可能性編

橋の基礎をつくる杭打ち工事。その主力技術が、まったく異なる分野でも活躍していることをご存知でしょうか?今回は当社の事業の核である「全周回転式オールケーシング工法」の驚くべき可能性と、環境に配慮した最新の取り組みをお伝えします。



専務
いわい なおひと
岩井 直仁さん

工法の概要と特長

事業の核となる主力工法

当社が主に用いている「全周回転式オールケーシング工法」。これは強力な回転力でケーシングを地中に圧入し、内部の土砂を掘削して場所打ち杭を造成する工法です。当社の仕事の約8割がこの工法を使った杭の施工で、橋の基礎などをつくるために行っています。そして残りの2割は、この工法の技術を応用した杭打ち以外の工事です。杭施工業者でありながら、その枠にとらわれず幅広く事業を展開しています。

打っただけではない幅広い用途

この工法は杭打ちだけに留まりません。建物の解体後に残された古い基礎などの地中障害物や、港の護岸の撤去も可能です。さらに、工場の跡地などで問題となる汚染土壌を除去し、きれいな土に入れ替える環境浄化事業にも活用されています。「地中の障害物をどうすれば撤去できるか」といったお客様からのご相談に対し、私たちの知見を活かして最適な方法を提案できるのも、大きな強みです。

工法にまつわるエピソード

広島での新挑戦

最近では、この工法の新たな可能性を追求する印象的な現場がありました。2024年冬から2025年初めにかけて広島で行った、道路橋の基礎工事です。通常、場所打ち杭は掘削した孔に鉄筋を入れ、生コンクリートを流し込んで杭を形成します。しかし、この現場では「回転翼杭」という、先端にらせん状の翼がついた鋼管杭を採用。これを全周回転式の掘削機で、まるでネジのようにぐりぐりと地中にねじ込みました。

この方法の最大のメリットは、掘削による土砂が出ないこと。さらに、鉄筋もコンクリートも使用しないため、産業廃棄物がほとんど発生しません。まさに環境に優しい工法で、今後ますます需要が高まっていくと考えています。

未来の受注につなげたい

私たちにとって初めての試みだった広島の現場。新しいことにチャレンジし、そこで得た経験は、関わった社員一人ひとりの知識として蓄積されました。その知識があるからこそ、他のお客様や取引先にも自信をもって説明できるようになる。これは大きな学びでした。今後は、これまであまり経験のなかった工事にも挑戦していきたいと考えています。特に、都市部の再開発などで増えている、既存の古い杭を撤去する工事です。地中の見えないものを撤去する作業は非常に難易度の高い工事であり、豊富な経験がなければ困難。まだ経験の浅い分野ですが、積極的に受注したいと思います。

若手の
皆さんへの
メッセージ

学び続け、 本物のプロフェッショナルに

若手の皆さんには、さまざまなことにチャレンジして経験と知識を増やしてほしいと願っています。社内に留まらず、他社がどのような工事をしているかなど、外部の情報にもアンテナを張って自ら学ぶ姿勢をもち、プロフェッショナルを目指してください。もちろん、最初から一人ですべてを抱え込む必要

はありません。地中の仕事は1つの失敗が大きな影響を及ぼすこともあります。自分の知識だけで進めるのではなく、少しでも不安に思ったら、必ず先輩や上司に相談し、確認を怠らないこと。そうして、一つひとつの経験を積み重ね、確かな知識と技術を身につけていってほしいと思います。